

AMERICAN LIFE

October
10

Halloween

10月日記



Halloween



9月半ばからハロウィンの準備が始まる。授業のトピックは「ハロウィンで人気のお菓子」「ハロウィンの物語を作ろう」などIELPの先生みんながハロウィンに関係するものを題材に取り上げても、話が尽きないからすごい。アメリカ人がどれだけハロウィンを楽しみにしているか感じ取れた。

フィンドレー市内にはハロウィンの時期のみオープンするハロウィン専門店がある。店内にはハロウィンコスチュームはもちろん、巨大なオブジェまで売っており、規模が違った。たった数ヶ月のためだけのお店は土地がたくさんあるアメリカだからこそ可能である。「土地代がもったいないじゃん!」と言ったら笑っていた。



ハロウィンといえばパンプキン。パンプキンパイ、パンプキンラテ、パンプキンクッキーなどさまざまなパンプキン味の食べ物がある。日本のカボチャプリンやパイとは違い、シナモンがかなり強いので好みが分かれる。また、オレンジパンプキンがアメリカのスーパーで簡単に手に入れることができ、街の至るところにジャック・オー・ランタンが置かれている。実際、私もクラスで作り、友達とも作り、ハウスパーティーでも作り、何度もパンプキンカービングを楽しんだ。



そして、ダウントウンではハロウィンパレードが開催。道路沿いには仮装した子供たちが、お菓子用の袋を開けて並んでいた。パレードにはマーチングバンドやバトンのチームが参加したり、一般市民が車を豪華に飾り付けをして参加していた。その飾り付けが煌びやかでかなりのお金をかけているようだった。実際、アメリカにおけるハロウィンの経済効果は高いらしい。



学内ではさまざまなハロウィンイベントが行われた。学食ではハロウィンディナーがあり、スペアリブなど特別なメニューであった。仮装大会では賞金をかけて、本気で仮装してきた人もおり、面白かった。マーチングバンドでも、仮装大会が行われ、仮装しながらの演奏はシュールであった。



October diary

10/2-3 Fall break

10/1~4 は秋休みで4連休だった。この4日間でロサンゼルスやニューヨークに旅行へ行く人もいた。



2・3日目は会話パートナーの家に宿泊。フィンドレーよりも小さな町で、コーン畑や大豆畑が広がっていた。信号なしのノンストップドライブは気持ちよく、会話の練習になった。手作りピザを作ったり、映画を見たり、巨大な鍾乳洞に行ったりと充実した休日だった。



conversation partner 会話パートナー

IELPの生徒と国際交流に興味のある学部生がペアになり、会話力向上を目指す。SUACの語学パートナーと同じ制度である。授業外での活動のため、パートナーによっては部活や仕事が忙しく、会話できていないペアもある。私のパートナーはキャンパス街に住んでおり、仕事が忙しいため頻繁には会えていないが、ガッツリ時間をとってくれる。



10/7-10 Homecoming

10月の半ばにホームカミングというイベントがある。卒業生や生徒の家族、職員の家族を大学に招待するというビッグイベントだ。ドレスコード指定のパーティーやフリーの朝食、ランチなどが開かれる。そして、フットボールの試合ではOBも観戦に来るため、1番の混雑となる。私はこの試合で初めて移動ありのマーチングバンドのショーに参加し、ものすごく心が高ぶった。最終日の夜は大学で花火の打ち上げがあり、アメリカの花火は音も明るさも派手だった。

10/11~ コロナ感染

味覚と嗅覚を失い検査したところ陽性。しかし、隔離もなくルームメイトも変わらず共に過ごした。コロナ感染後の対応が人によって違うのは自己申告で症状を伝えているからだと思う。

10/21 ハイキング

アウトドアクラブの人たちとフィンドレーから数分の州立公園へ。森やキャンプ場がメインの公園は紅葉シーズンで綺麗だった。



10/22 Ohio State Football

オハイオ州立大学のフットボールを観戦。アメリカにおけるカレッジフットボールの人気は甲子園よりも熱くフィンドレー市内でもこのチームのTシャツを着た人がたくさんいる。その大学出身でなくても地域のチームを応援しているようだ。巨大な会場はほぼ満席でMLBよりも人が入っていたほどであった。また、オハイオ州立大学のマーチングバンドはハイレベルで、とてもカッコよかった。日本のクラブ活動とは比べ物にならない規模感なので、ぜひ観戦してほしい。



